

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	つくしんぼ教室		公表日	2025年3月31日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容や個々の様子に合わせて、スペースの確保・工夫をしている。</li> <li>・利用人数やそれに合わせた活動内容に応じてパーティションを利用して、適切に活動ができるようにしてい</li> </ul>	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置数は適切であるか。	19	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容、児の状況に合わせて、時には、流動的に配置を工夫して対応している。</li> <li>・児の人数や活動内容により、人数を増減している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数に対して専門職の人数が不足しているように感じる。</li> <li>・専門職の個別療育だけでなく、グループ保育の中で複数の園児と保護者に働きかける方法を考えたい。</li> </ul>
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援ツールの活用、パーティション利用など活動内容や児に合わせた配慮の中で環境設定を工夫している。</li> <li>・写真や絵を使い、分かりやすく支度や流れが分かるようにしている。</li> </ul>	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒・点検など日々安全に過ごせる配慮をしている。活動に合わせ環境設定を工夫している。</li> <li>・毎朝、子どもとの接触が多そうな場所を重点的に消毒している。</li> </ul>	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーティションの利用や個別での支援ができる環境設定を状況に合わせて対応している。</li> <li>・その日の保育室の空き部屋だったり、訓練室等、空いている部屋はすぐに使用できるよう、環境が整備されている。</li> </ul>	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で情報の共有を図り、改善に取り組んでいる。</li> </ul>	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事など各自で意見を出し合い、よりよい支援へつなげている。</li> <li>・職員会議やスタッフミーティングで共有</li> </ul>	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	15			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	19			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	19			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のニーズや課題を職員間で意見交換をし、支援計画の作成につなげている。</li> </ul>	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画作成前に職員間で個々への共通理解を確認し、検討している。</li> <li>・月に一回の職員会議や毎朝、保育の前には、ミーティングを行い、職員同士の連携や情報の共有を図っている。</li> <li>・日々の打ち合わせや訓練等の専門職との情報共有、担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者会議での意見交換や共通理解を</li> </ul>
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の支援を職員間で共有し、支援計画をし、さらなる支援へとつなげている。</li> <li>・支援計画が狭んであるファイルの場所を職員が把握できており、確認できる。</li> </ul>	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	19			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	19			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	17			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の興味関心につながる量や内容に配慮工夫している。</li> <li>・着席課題や製作、日々の音楽など新しい情報にアンテナを張り、取り入れている。</li> </ul>	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	20		・一人一人の目標、グループ目標を考え、活動内容を計画し、支援へつなげている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	20		・朝、ミーティングを行い、児への支援につながるよう職員間で共有し、確認を行っている。 ・毎朝、ミーティングを行い、保育の流れだけでなく、個々に配慮すること、支援の目的、ねらいなども共有できるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	20		・気づいたことは終了後、伝えるようにしている。 ・個別で子どもや保護者のことについて気になった点、気づいた点などは、担当の保育士にその都度話している。 ・支援開始前や終了だけでなく、日ごろから気になる事や保育が適切であったのか、児に対し、今の目標が何かを確認し、共有している。 ・時間の確保はなかなか難しいが、気づいたことはその日のうちに排除をしながらなど、伝えようようにしている。	・行えることが多いが、必ずその時間を確保できるということではない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20		・日々の記録を支援の共有など活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	20			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	20			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	19			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20		・交流保育を行い、実際の支援共有と相互理解につなげている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19			
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	20		・交流保育を実施している。 ・地域の幼稚園を中心に交流保育を行い、交流する機会を設けている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20		・母子通園の体制の中で、日々コミュニケーションを持つようにしている。 ・普段の保育の中で、保護者との会話の中で子どものことや、普段の様子などを話し、情報を共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	19				
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	19				
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	19		・保護者との面談を実施する中で確認し、支援計画につなげている。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	20		・保護者との面談を実施している。		

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	20		・保育日に保護者への声かけを心がけ、支援につながる体制を作るようにしている。 ・母子通園だからこそ、保護者と近い距離に居られる環境があり、少しの変化にも気付きやすく、支援につながっていると感じている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	17		・給食後は、部屋の中でちょっとした母子分離を行い、保護者同士でのゆっくりと会話ができる場を設けている。 ・食後、子ども達は保育士と遊んで過ごし、保護者間で情報交換や懇談する等、交流する時間を設けている。	・"きょうだい同士"については不明
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	19		・保育士だけでなく、専門スタッフとの相談など対応できるようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	19			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	20			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	15	2	・ボランティアの受け入れを実施している。 ・ボランティアという形で行事へ参加してもらい、理解を深めてもらっている。 ・地域住民を行事等のボランティアに募っている。	・地域住民への招待などはしていない。行事でのボランティアは募っている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	20			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	20		・様々な災害を想定し、訓練を行い、災害発生時の児への支援へつなげられるように行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	20		・保護者からの情報提供をもとに職員間で共有し、確認、対応できるようにしている。 ・てんかん発作が、いつ、どのような時に起きたかを職員間で共有し、怪我防止にも務めている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	19			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	18			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	18			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20		・職員会議で振り返り、共通理解し、再発防止に努めている。 ・会議の中で、その時の状況や子どもの様子を共有し、対策方法や保育の仕方などを話し合っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	19		・正しい知識と情報に基づき、代替性などの検討をし、保護者へは面談時に、確認、了解を得ている。		